

記 録

## 明治以降の岡山県における民間の植物研究の軌跡

株式会社エバルス 土岐 隆信

Achievements of botanical research workers in Okayama Prefecture

Takanobu TOKI, EVERLTH Co., Ltd.

キーワード：岡山県の植物研究者，生物採集総動員，岡山県植物研究会。

### はじめに

明治時代から現在まで多くの植物研究者が県内を歩き、観察、採集などを行い、多くの植物が新発見され、新しい生育地が見いだされた。そして、植物関係の雑誌に投稿や報告が行なわれ、採集品の目録や同好会の植物誌などが作成されたが、当時はガリ版刷りのものが殆どであり、配布先も同好者などが多く、現在では図書館や学校などの公共施設にどのように保管されているか不明である。また、研究者の多くは故人であり、これらの人と共同研究を行なった人やその人達を知っている人も高齢化しており、どのような経緯のもとに研究されたか不明であることが多い。

このような状況であるので、発行された目録等も所在がわからず、書名、論文名だけのものも多いが、今後の研究の一助にしたいと考え調査を開始しリストを作成した。これらに報告された植物の自生地などは自然環境の変化や開発、乱獲などにより絶滅したものも多いと思われるが、これらの記載を確認することは意義あることと思われる。

ここに明治時代から平成時代まで活躍した35名の民間の研究者をとりあげた。吉野善介を始めとして県内での新種の発見や多くの論文を書いた方、岡山県植物研究会で活躍した方などで、その方の略歴や著作物、論文の目録などを記載した。

記載の略歴や内容については、本人の著書や論文に記載されたもの、会誌等に掲載されていた名簿などから引用し、また筆者が直接話を聞いたことや、遺族に手紙等で問い合わせたものも記載した。なお、地名については当時の旧名をそのまま使用した。

### 明治時代から大正時代まで

明治となり新しい教育が始まり、牧野富太郎をはじめとし東京や京都などから大学関係者などがたびたび来県し、県内で採集が行なわれ、また、講習会などが実施された。これにより県内各地に研究者が育ち、多くの新種の発見があった。以下、西原禮之助の「地域植物誌研究：1962（昭和57）年、発行所不明」を参考に記述する。具体的には、安井伴市により「美作植物一斑：植物学雑誌，7巻，1883（明治16）年」が報告され、この報告が、岡山県での最初のものといわれている。続いて、山本頼輔（沼田頼輔）により「岡山県北部地方植物採集記：植物学雑誌，9巻，1885（明治18）年」、大上宇一により「播磨国よりの植物通信：植物学雑誌，10巻，1886（明治19）年」、および「中国の植物に就いて：植物学雑誌，20巻1896（明治29）年」が報告された。さらに、牧野富太郎による「カザグルマ及びバイカモの新産地：日本植物調査21回」の記事に吉野善介の名がでていいる。また、雪吹敏之により「美作植物目録：1901（明治34）年」が出版された。また、

連絡先：ttoki@mx1.ket.ne.jp

小泉源一によりヒロハニハトコの採集 [備中天神山にて, 1908 (明治41) 年], 田村亀造のピッチュウフウロ発見 [哲多にて, 1907 (明治41) 年], 牧野富太郎がジョウボウザサの採集 [高梁にて, 1913 (大正2) 年], 田代善太郎による高梁臥牛山の調査 [1925 (大正14) 年] などが行われた。

### 昭和初期から戦前まで

1930 (昭和5) 年11月13日から20日まで陸軍特別大演習が県南部一帯で行われた [参考: 岡山県大百科事典: p.1378, 1980 (昭和55) 年, 山陽新聞社]。岡山県では他県に先駆けこの機会に, 来県される昭和天皇に県内の生物を採集してご覧に入れようと県下の生徒児童を総動員して6月1日, 2日に県下一斉に植物を, 7月1日に昆虫を採集した (生物採集総動員)。その結果, 動員延べ人員40万人により植物標本68万点が, 昆虫標本は動員延べ人員28万人により18万点が作成された。その際の植物に関する顧問は田代善太郎 (京都大学), 吉野善介 (高梁市) であり155科1763種が記録された。佐藤清明の「大演習と岡山縣博物: まんさく, No.8, p.1-8, 1933 (昭和8) 年, 吉備博物同好会」によると, これの内容を整理のうえ「岡山県内生物目録」(110ページ) にまとめられ, 昭和天皇にご覧に入れたとされる。この生物採集総動員 (採集動員) が行なわれたことにより, 県下の植物研究者の繋がりが深まったものと思われる。

その頃出された目録等としては, 守屋護伊知「小田郡植物目録」, 坪井近三「吉備郡植物目録」, 佐藤清明「浅口郡植物目録」, 伊達俊夫「川上郡川上村植物誌」, 山口國太郎・小坂弘「阿哲郡産植物目録」, 坪井近三「吉備郡産有用植物誌: 1934 (昭和9) 年」, 佐藤清明「岡山県植物目録」, 佐藤清明・西原禮之助「岡山県植物誌 (キク科~ナス科)」, 吉備郡博物研究会編「岡山縣吉備郡植物目録: 1931 (昭和6) 年12月, 西山森太「民間薬草: 1932 (昭和7) 年5月10日発行」などがある。

また, 岡山縣高松農学校「岡山縣吉備郡植物 (137科1050種) 目録 (但 苔葱科以上): 1932 (昭和7) 年1月」には前年の生物採集総動員で採集されたものに加え, 新たに採集されたもの, 備中植物誌に記されたものを載せている。さらに1930 (昭

和5) 年の陸軍特別大演習の際, 薬用植物180種の腊葉が謹製献上され, その目録を佐藤清明が謄写し50部限定で発行した。

### 戦後から昭和までの状況

その詳細は後述する通り, 多くの研究者, 特に教育関係者が県内各地で調査を行ない, 同好会の結成や会誌, 目録などが多く発表された。吉野善介, 小坂弘, 佐藤清明, 難波早苗や西原禮之助らが, 研究者の中心となり, 同好会の結成や, 会誌の発行が行なわれた。

### 岡山県植物研究会の発足

先に述べた里庄町出身の植物学者である佐藤清明が1980 (昭和55) 年に博物学研究, 文化財保護保存への貢献に尽くしたことにより勲五等双光旭日章を受賞した。そのことを祝い植物関係者有志により叙勲祝賀会が企画され, 1981 (昭和56) 年5月31日に岡山会館ホテルニュー岡山で開催された。佐藤清明の叙勲祝賀会において, 佐藤の挨拶の中に, 植物同好者が大同団結して「岡山県植物誌」を編さんしてはとの提案があり, その当時全県下を網羅する研究会も無かったので植物研究に携わっている者たちで, 新たに会を結成しようという声が起こった。叙勲祝賀会及びこの会の設立には西原禮之助が大変尽力し, 加藤豊, 楠原良三, 花田親兵衛, 井木長治が協力した。若輩の土岐は準備など手伝ったが, これにより諸先輩の知遇を得たことは幸いであった。まず, 会の設立のため, その頃活動をされている者や研究実績のある者として, 岡山県天然記念物緊急調査員, (文化庁の企画により, 岡山県教育委員会が1967 (昭和42) 年から5年計画で天然記念物緊急調査を実施した時の調査員) を中心に案内が行われた。案内状を出した人は, 上記の調査員であった徳山鍊也, 押柄慎吾, 井上立, 難波早苗, 高山敬三, 岳山利夫, 本位田隣太, 加藤豊, 光畑之彦, 福島和彦, 花田親兵衛, 大久保一治, 成瀬豊, 小坂弘, 中村順平, 三宅一喜, 堀口正志, 渡辺義行, 花田起志平, 原田昭子, 佐藤清明の21名であり, また, 祝賀会開催当時に植物研究に携わっている者として奥田拓男, 中原清士, 西原禮之助, 古屋野寛, 井木長治, 宗田克巳, 高田真一, 楠原良三, 小島

裕子、波田善夫、小川大右、佐藤好人、杉原操、金高正典、土岐隆信、鷹取晟二、三好教夫、赤堀隆一郎、白井英治、日原誠介、花田靖之助、安原清隆、難波英生、土岐嘉允、大森長朗の25名にも案内が行なわれ、これらのうち最終的に祝賀会に22名が出席した。

その後、祝賀会に関係した研究者らの協力により、岡山県植物研究会の設立総会が、1981（昭和56）年9月15日、岡山市立オリエン特美術館講堂において開催され、出席者全員の推挙により佐藤清明が初代会長に就任し、役員も決定した。2代目会長は西原禮之助が1982（昭和57）年4月から就任したが、1994（平成6）年会長の西原禮之助の死去により、この研究会は自然解散となり、「岡山県植物誌」は未完となった。

岡山県植物研究会が母体となり「岡山県植物研究会誌」を第1号〔1982（昭和57）年3月〕から第13号〔1994（平成6）年7月〕まで、「岡山県植物研究会会報」を第1号〔（1982（昭和57）年4月）〕から第29号〔1992（平成4）年10月）〕まで発刊した。その当時県内には発表の雑誌等がなかったので県下各地の多くの研究者が会誌に投稿し、会報には会の報告事項や、植物関係のニュース、採集会の報告などが載せられた。

### 明治以降に活躍した主な植物研究者

以下、明治以降の岡山県内において活躍した主な在野の植物研究者についての論文や出版物を記載することにより、その業績の足跡をたどる。研究者は、県下全域を研究した人、備中地域、備前地域、美作地域を中心に活動した人に大きく分れる。県下全域にわたっての研究者は、佐藤清明、西原禮之助、大久保一治、古屋野寛などである。備中地域全般においては、吉野善介であり、阿哲方面では赤木敏太郎や鯉が窪湿原の調査、石灰岩地域の調査を行なった小坂弘、山口國太郎など、川上郡方面、石灰岩地帯の調査を行なった高田真一、中村順平、高梁方面では臥牛山の植生や備中地域の調査を行なった難波早苗などが挙げられる。備前地域では花田親兵衛、美作方面では押柄慎吾、高山敬三、本位田隣太などが活躍した。

### (1) 吉野善介（よしのぜんすけ）

吉野善介については、岡山大学薬学部の名誉教授である小山鷹二による「岡山県の植物研究者 吉野善介：薬史学雑誌、36巻、2号、p.113～129、2001（平成13）年」に詳しいが、この文献を参考にしながら、今回判明した記載のない論文も以下に記述する。

吉野善介は1877（明治10）年5月5日に高梁町で生まれ1964（昭和39）年12月11日宝塚市において没した。1892（明治25）年に高梁高等小学校を卒業後、市内の家業の薬店を手伝いながら、薬の注文取りや配達の際に途中路傍の草花に興味を持ったことから、植物の研究に入ったとされる。明治32（1899）年前頃から牧野富太郎に書面で質問するようになり、また、高梁中学に着任した西原（さいはら）一之助の指導を受けた。「備中植物誌」を1929（昭和4）年、「補遺1」を1930（昭和5）年、「補遺2」を1931（昭和6）年に刊行。その際補遺編発刊に佐藤清明が尽力した。その後1932（昭和7）年に高梁を出て、大阪の株式会社武田長兵衛商店研究部に勤務した。同年「備中植物発見史」を出版した。1936（昭和11）年には採集した全標本を武田長兵衛商店に譲渡した。1945（昭和20）年に、高梁に帰郷、故郷での植物研究を再開したが、正式には1946（昭和21）年に株式会社武田長兵衛商店を退職した。1948（昭和23）年に岡山県の文化向上に著しく貢献したということで第1回岡山県文化賞を受賞した。

吉野植物研究所を1953（昭和28）年に主宰し「備中の植物」1～10号を発行した（1、2号の発行人は難波早苗となっている）。1号には吉野善介が「備中植物探究小史」を、以降、難波早苗、井木長治らが寄稿している。また、4号には坂井進一郎の「山陽附子について」、横溝熊市の「エヒメアヤマ備中に産す」などが載っている。

また、吉野善介が県内で発見した植物は以下の通りとなる。

- ・チトセカズラ：1901（明治34）年、高梁市高倉
- ・ナツアサドリ：1902（明治35）年、高梁市津川
- ・チョウジガマズミ：1902（明治35）年、新見市上市
- ・キビノクロウメモドキ：1902（明治35）年、新見市本郷

- ・ヨシノアザミ：1902（明治35）年，高梁市臥牛山
- ・フキヤミツバ：1903（明治36）年，高梁市吹屋
- ・アオイカズラ：1906（明治39）年，新見市万歳
- ・ナガバヤクシソウ：1909（明治42）年，高梁市成羽
- ・ビッチュウフウロ：1910（明治43）年，新見市本郷
- ・チョウセンヤマツツジ：1911（明治44）年，高梁市高倉
- ・ビッチュウアザミ：1912（明治45）年，新見市上市
- ・ヒメヨツバハギ：1912（明治45）年，高梁市福地
- ・ゲンカイツツジ：1913（大正2）年，高梁市吹屋
- ・キビサクラタデ：1914（大正3）年，総社市湛井
- ・ヨシノヤナギ：1914（大正3）年，高梁市落合  
その他，ウラジロヨシノヤナギ，イヌイワデンダ，マツムライヌノヒゲ，キビノボロスゲ，キビノノダケ（ヒノノノダケ），ミコシギク，ケタガネソウ，ビッチュウヤマハギ，オオタチカモジ，ミズニラ，サイコクヌカボ，ヒメヨツバハギ，ジョウボウナシ，ナリワナシ，キビナツナシ，オオヤハズナシ，オクマンダナシ，ビッチュウヤマナシ，キビザクラ，カザグルマを発見している。  
さらに，発表した植物関連の文献は，下記の通りである。
- ・備中産植物数種：植物學雑誌，Vol.20，No.231，1902（明治35）年
- ・*Buxbaumia aphylla* L. 備中に産す：植物學雑誌，Vol.27，No.320，1913（大正2）年
- ・備中産植物に就いて：植物學雑誌，Vol.27，No.321，p.428~430，1913（大正2）年
- ・一二の備中産植物に就いて：植物研究雑誌，Vol.1 No.12，1913（大正2）年
- ・川上郡の植物：川上郡誌，1920（大正9）年
- ・中井博士の小生に対する非難を弁ず：植物研究雑誌，Vol.4，No.4，1927（昭和2）年
- ・備中植物誌：1929（昭和4）年
- ・備中植物誌 補遺其の1：1930（昭和5）年
- ・備中植物誌 補遺其の2：1931（昭和6）年
- ・備中植物発見誌：岡山文化資料，第3巻，第2号，岡山文献研究会，1930（昭和5）年
- ・日暮舎漫筆：植物研究雑誌，Vol.8，No.7，1932（昭和7）年
- ・大阪採集記：まんさく，No.7，p.103~116，1932（昭和7）年
- ・備中植物雑談：まんさく，No.10，p.12~13，1934（昭和9）年
- ・近畿植物短報（其1）：植物研究雑誌，Vol.10，No.8，1934（昭和9）年
- ・近畿植物短報（其2）：植物研究雑誌，Vol.11，No.1，1935（昭和10）年
- ・コガネシダ備中上房郡内に産す：まんさく，No.11，p.4~5，1936（昭和11）年
- ・竹の一新種ビッチウミヤコザサ：まんさく，No.11，p.5~6，1936（昭和11）年
- ・岡山縣上房郡高梁町臥牛山植物目録：難波早苗と共著，1950（昭和25）年
- ・備中植物探究小史：備中の植物，第1号，p.3~6，1953（昭和28）年
- ・備中植物分布概観：備中の植物，第2号，p.4~8，1954（昭和29）年
- ・臥牛山の植物案内：備中の植物，第3号，p.12~18，1954（昭和29）年
- ・真似男峠から新城池へ：備中の植物，第4号，p.11~13，1955（昭和30）年
- ・赤木敏太郎氏の標本：備中の植物，第4号，p.14，1955（昭和30）年
- ・貴船大黃が佛国に産する？：備中の植物，第5号，p.2，1955（昭和30）年
- ・佐与谷の植物：備中の植物，第5号，p.5~7，1955（昭和30）年
- ・吹屋天神山の植物：備中の植物，第6号，p.27~29，1956（昭和31）年
- ・備中産植物2種の新報知：備中の植物，第6号，p.30，1956（昭和31）年
- ・小泉博士旅行覚書の後：備中の植物，第7号，p.6~8，1956（昭和31）年
- ・茱萸はグミでよいのか：備中の植物，第7号，p.3，1956（昭和31）年
- ・西村茂次氏と小笠原植物：備中の植物，第8号，p.14~17，1956（昭和31）年
- ・自己中心 備中植物探究年表：備中の植物，第10号，p.12~22，1958（昭和33）年
- ・高梁川流域の珍しい植物（一）：高梁川，No.9，1961（昭和36）年
- ・高梁川流域の珍しい植物（二）：高梁川，

- No.10, 1961 (昭和36) 年
- ・高梁川流域の珍しい植物 (三) : 高梁川, No.11, 1961 (昭和36) 年
  - ・備中臥牛山の樹木 : 植物研究雑誌, Vol.5, No.5, 1978 (昭和53) 年
  - ・歌集 なつあさどり : 1980 (昭和55) 年
- 吉野は1929 (昭和4) 年に出した「備中植物誌」の増訂を出す事を強く望んでいたようで、『拙稿「増訂備中植物誌は種々の事情で刊行が遅れているが、私も古希を過ぐる三歳、郷土植物の調査もまだ完璧と云うわけにも行かず日暮れて途遠しであります…」後略』と、備中植物新報知 : 備中植物研究 第1号1949 (昭和24) 年に書いている。さらに、「備中植物探究小史 : 備中の植物第1号1953 (昭和28) 年9月 p.6」には、附記として『昭和23年に私は「増訂備中植物誌」の稿を成就した。これは旧版発行以来に判明した備中産植物を追補し、且つ学名の改訂、産地の追加などをした物であるが、不幸にして、…後略』と出版が出来ないことをなげいている。また、吉野の残した4冊の採集日記が難波早苗に譲られており、これには採集した植物が学名などで記載され、同行の人などについても書かれているので、今後詳細に調べたい。

## (2) 小坂弘 (こさかひろむ)

小坂弘は1904 (明治37) 年に阿哲郡野馳村大野部で出生、1999 (平成11) 年に没した。1924 (大正13) 年岡山師範学校卒業を同年唐松小学校訓導から1961 (昭和36) 年哲西町立野馳小学校長で退職するまで新見市、阿哲郡内の小学校に勤務した。その間、1929 (昭和4) 年の文部省植物検定に、また1940 (昭和15) 年の文部省動物検定に合格した。哲西町文化財保護委員会委員長を務め、1970 (昭和45) 年に岡山県文化財保護協会賞を受賞し、1977 (昭和52) 年には勲五等瑞宝章を受章した。新見市名誉市民に推挙された。

在野の研究者として、鯉が窪の湿生植物群落の動植物、オグラセンノウ、ビッチュウフウロ、ミコシギク、シラヒゲソウ等の調査を行い、その中で吉備博物同好会、岡山植物同好会、吉備の植物同好会を主宰し活躍した。

以下、著作集として主宰する同好会ごとに記

述する。まず吉備博物同好会では「まんさく : No.1, 1930 (昭和5) 年~No.11, 1936 (昭和11) 年」を発行した。「まんさく」に寄稿された論文を挙げる。

吉備博物同好会

- ・やまとれんげう *Forsythia Japonicus Makino* に就いて : まんさく, No.1, p.1~8, 1930 (昭和5) 年
  - ・縣下生物採集動員によって得たる植物の新種 : まんさく No.2, p.17, 1930 (昭和5) 年
  - ・再びヤマトレンゲウに就いて : まんさく, No.2, p.23~24, 1930 (昭和5) 年
  - ・岡山縣産蘚苔植物 : まんさく, No.3, p.41, 1931 (昭和6) 年
  - ・阿哲郡南部石灰岩地の植物 : まんさく, No.5, p.63~69, 1932 (昭和7) 年
  - ・阿哲郡西南部地方の植物 : まんさく, No.6, p.85~97, 1932 (昭和7) 年
  - ・備中阿哲郡北部脊稜地方の植物 : まんさく, No.8, p.23~31, 1933 (昭和8) 年
  - ・校章となったヒメコマツとシロヤマブキ : まんさく, No.9, p.27~28, 1934 (昭和9) 年
  - ・豪溪の植物 : まんさく, No.9, p.31~34, 1934 (昭和9) 年
  - ・備中高梁川沿岸の植物 : まんさく, No.10, p.18~21, 1934 (昭和9) 年
  - ・日本趣味の園藝 : まんさく, No.10, p.25~33, 1934 (昭和9) 年
  - ・どれがはぶ茶であるか : まんさく, No.11, p.29~30, 1936 (昭和11) 年
  - ・土地の垂直断面によりてうかがひたる備中北部に於ける植物分布 : まんさく, No.11, p.31~40, 1936 (昭和11) 年
  - ・小學理科書の挿畫について : まんさく, No.11, p.41~47, 1936 (昭和11) 年
  - ・やつでの葉 : まんさく, No.11, p.48~51, 1936 (昭和11) 年
- 次に岡山植物同好会では「岡山の植物」を発行した。第1号は倉敷市で1947 (昭和22) 年1月20日発行され、「岡山の竹と笹 : p.1~6」, 「児童が食ふ植物の方言 : p.18」, 「岡山の羊歯 : p.25~28」, 「岡山に於ける中國要素と其の分布 : p.29~35」が記載されている。第2号, 3号は阿哲郡野

馳村で発行されている。第2号 [1947 (昭和22)年8月20日] には「ホソバナコバイモを採る記：p.1~3」, 「わらべ唄と植物：p.10~13」, 「カヤの種子にある壁蝨室：p.13」, 「岡山に於ける中國要素と其の分布 (2)：p.25~31」, 「クサギの花：p.31~32」が、第3号 [1948 (昭和23)年] には「阿哲の名を冠する植物：p.1~2」, 「岡山で育成せられた作物の品種：p.5~7」, 「岡山のテンナンショウ：p.8~11」, 「二三植物の花外蜜腺：p.14~15」, 「岡山に於ける満鮮要素と其の分布：p.16~20」が記載された。この間、以下の報告を行っている。

- ・阿哲郡植物並蝶蛾目録：吉備博物同好会，山口國太郎と共編，1934 (昭和9)年5月
- ・鯉が窪の湿原—サワツタの動物植物：哲西町自然と文化の保護協議会，小坂弘編
- ・哲西史哲西町文化財シリーズ：企画編纂責任
- ・あてつまんさく：阿哲科学シリーズ，ヒラ文具店印刷，1950 (昭和25)年
- ・荒戸山：小坂弘編，1951 (昭和26)年

さらに、吉備の植物同好会を主宰し、「吉備の植物：1号，1966 (昭和41)年~11号，1971 (昭和46)年」までを発行した。1号には難波早苗がタカハシテンナンショウについて報告しており、また、大久保一治，高田真一，古屋野寛，堀口正志，横溝熊市，押柄慎吾，小坂弘が投稿している。2号以下も同様のメンバーらが寄稿している。この「吉備の植物」には各号とも、短信のページがあり多くの執筆者が身近な発見や観察についての投稿がされている。以下に「吉備の植物」に投稿された論文を挙げる。

- ・岡山の植物分布 (1)：吉備の植物，No.1，p.16~18，1966 (昭和41)年
- ・岡山の植物分布 (2)：吉備の植物，No.2，p.17~19，1967 (昭和42)年
- ・岡山の植物分布 (3)：吉備の植物，No.3，p.18~20，1967 (昭和42)年
- ・野生モモの核と縄文出土のモモの核：吉備の植物，No.4，p.17~18，1967 (昭和42)年
- ・岡山の植物分布 (4)：吉備の植物，No.4，p.19~21，1967 (昭和42)年
- ・岡山の植物分布 (5)：吉備の植物，No.5，p.12~14，1968 (昭和43)年

- ・岡山の植物分布 (6)：吉備の植物，No.6，p.16~18，1968 (昭和43)年
- ・岡山の植物分布 (7)：吉備の植物，No.7，p.19~22，1968 (昭和43)年
- ・岡山の植物分布 (8)：吉備の植物，No.8，p.17~19，1969 (昭和44)年
- ・新見市のホソバナコバイモなお多し：吉備の植物，No.8，p.20~21，1969 (昭和44)年
- ・白神寿吉先生を悼む：吉備の植物，No.9，p.14，1970 (昭和45)年
- ・岡山の植物分布 (9)：吉備の植物，No.9，p.15~18，1970 (昭和45)年
- ・自翁年輪を読む：吉備の植物，No.10，p.20，1970 (昭和45)年 (注：白神寿吉の経歴等)
- ・岡山の植物分布 (10)：吉備の植物，No.10，p.22~24，1970 (昭和45)年
- ・セイヨウヒルガオ備中北部にはいる：吉備の植物，No.11，p.21，1971 (昭和46)年
- ・岡山の植物分布 (11)：吉備の植物，No.11，p.22~24，1971 (昭和46)年

### (3) 赤木敏太郎 (あかぎとしたろう)

赤木敏太郎は1879 (明治12)年阿哲郡草間村姫原に出生，1941 (昭和19)年に没した。高粱中学校，岡山師範学校二部を卒業後，阿哲郡草間尋常小学校などの訓導，豊永小学校校長を勤めた後，1941 (昭和16)年に草間村長に就任した。

チョウジガマズミ，ホソバナコバイモを1904 (明治37)年に新見で発見した。小坂弘の「やまとれんげう *Forsythia Japonicus Makino* に就いて：まんさく，No.1，1930 (昭和5)年」および「再びヤマトレンゲウに就いて：まんさく，No.2，1930 (昭和5)年」によると，赤木敏太郎がヤマトレンゲウを1906 (明治39)年4月に石蟹郷村鯉瀧にて初めて採集し，西原 (さいはら)，吉野へ送付したが，種が不明であったため，さらに牧野へ送った。その後，1913 (大正2)年に牧野を鯉瀧に案内し，野生の一新種であることが確認され，牧野がヤマトレンゲウと命名して，「植物学雑誌，第28巻，328号，1913 (大正2)年」に発表したとされている。しかし，該当する書籍を確認したところ，これに掲載はなかった。前述の小山鷹二の「岡山県の植物研究家吉野善介」薬史学

雑誌, 36巻2号にはヤマトレンギョウについて『牧野は文書で発表した』とのみ記載されていることから, どの雑誌に掲載されたのかなど詳細は不明である。

#### (4) 二階重樓 (にかいしげたか)

二階重樓は大谷伊三郎として1859(安政6)年4月18日に山口県三隅町で出生, 1932(昭和7)年11月12日に萩市で没した。1890(明治23)年に二階家に入り, 二階重樓と改名した。巴城学舎(現在の萩高校)を卒業。1902(明治35)年岡山県高松農学校教諭として着任。1903(明治37)年徳島農学校に転任した。

佐藤清明は吉野善介とこの二階重樓について、『我が岡山県の植物学史を編する場合があったら, 何人と雖も吉野善介氏, 二階重樓氏の二氏は何を措いても第一番に特筆大書せねばならぬ。』と「近事片信: まんさく, No.7, p.123~125, 1933(昭和8)年, 吉備博物同好会」に書いている。そして, 二階重樓の業績として, 1902(明治35)年から1903(明治36)年にかけて行われたマツムライヌノヒゲ, キビノミノボロスゲ, ビッチュウヤマナシ, キビノダケ, ミコシギク, ケタガネソウ, ミヅニラ, オホタチカモジ, ビッチュウヤマハギ, サイコクヌカボ, クロバナサワフタギ, キクバノニガナの採集をあげている。

#### (5) 西原一之助 (さいはらいちのすけ)

西原一之助は久留米出身であるが生年は不詳である。1930(昭和5)年4月27日久留米で没した。前述の小山鷹二による「岡山県の植物研究家 吉野善介」によると, 1900(明治33)年11月博物の教師として高梁中学へ着任した。吉野善介を指導し共に数年間採集を行なったが, その後は川柳に凝り在職18年で上京した。

#### (6) 山口國太郎 (やまぐちくにたろう)

山口國太郎は号を山口荒谿と称し, (13)に後述する加藤豊の父である。阿哲郡新砥村(現新見市哲多町)大字田淵に1879(明治12)年2月2日生まれ, 昭和11年1936(昭和11)年12月20日没した。1902(明治35)年岡山師範学校を卒業, 阿哲郡内の各小学校教諭を勤め, 1931(昭和6年)

矢神小学校長を退職した。

1931(昭和6)年広島県比婆郡の猫山でネコヤマヒゴタイを発見した。『1914(大正3)年8月に新見市黒髪山で父(山口國太郎)が牧野富太郎とともにマンサク類を見たときに, 牧野博士が「これは新種だ」と言われ, クロカミマンサクと名付けようとされた。しかし, 父がこれは阿哲郡一帯に生育していることを牧野博士に告げたところ, それではと牧野博士がアテツマンサクと名付けた』と息子の加藤豊が筆者に語ったことがある。また, 『1930(昭和5)年の陸軍特別大演習の時, オグラセンノウ(仮の名をサワナデシコとして)を鉢植えにして, 天覧に供した』ということも加藤豊から伝え聞いている。

「まんさく」に以下の著述が寄稿されている。

- ・私のお花畑: まんさく, No.2, p.15, 1930(昭和5)年
- ・新種ネコヤマヒゴタイ: まんさく, No.7, p.117~118, 1933(昭和8)年
- ・新砥村植物数種について: まんさく, No.8, p.9~11, 1933(昭和8)年
- ・備北採集記: まんさく, No.9, p.1~5, 1934(昭和9)年
- ・ウンシュウミヅキ外数種植物について: まんさく, No.10, p.14~15, 1934(昭和9)年

さらに, 「阿哲郡植物並蝶蛾目録: 吉備博物同好会, 1934(昭和9)年」を小坂弘との共編で出版している(前述)。

#### (7) 佐藤清明 (さとうきよあき)

佐藤清明は1905(明治38)年5月9日に里庄村で出生, 1998(平成10)年9月17日に没した。金光中学を1923(大正12)年に卒業, 第六高等学校生物学教室に就職した。その後, 1925(大正14)年に福岡県立小倉中学校理科教師となる。帰郷後, 1931(昭和6)年から1987(昭和62)年の間, 生物教師として清心高等女学校に奉職した。その後, 清心女子大学講師, 岡山女子短期大学, 岡山大学薬学部, 農学部, 医学部などの講師を勤める。植物学, 動物学, 民俗学や妖怪, 方言など多彩な分野で活躍した博物学者の佐藤清明を顕彰しようと里庄町で2018(平成30)年に佐藤清明資料保存会が結成され, これら研究に貢献し

た佐藤の蔵書や蒐集物の保存を目的に調査が始められ、各種の資料が発見された。佐藤の業績一般は、里庄町立図書館の「里庄の偉人 佐藤清明顕彰特設サイト」に詳細が書かれているので参考にしてほしい ([https://www.sl.net.town.satosho.okayama.jp/seimei\\_report\\_list.html](https://www.sl.net.town.satosho.okayama.jp/seimei_report_list.html))。佐藤は植物関係だけでなく文化、教育など多彩な活動を行い1980(昭和55)年に勲五等双光旭日章を受賞する。受賞の功績調書には『第六高等学校(六高)に勤務したことが植物学研究の契機となり、吉野善介、二階重樓及び赤木敏太郎等の指導を受けたことで植物学の基礎作りが確立した』と記載されている。佐藤の植物関係に於ける功績の一つにキクザクラの増殖がある。キクザクラは御所桜の一種とされる八重桜で100枚から300枚の花弁があり花形は球状である。児子昌志、藤井新太郎の「菊桜に関する考察：第六高等学校同窓会会報, p.51~54, 2004(平成16)年」によると、キクザクラは、旧制第六高等学校に植えられていたが、1945(昭和20)年6月29日の岡山大空襲で灰燼に帰した。しかし、佐藤が六高在職中に接木して保存していた里庄村のキクザクラは命脈を保っていた。キクザクラは昭和天皇の第四皇女順宮厚子内親王(岡山池田家に降嫁)の御紋章に選ばれており、1952(昭和27)年に佐藤はご来岡の天皇に自ら増殖し保存していたキクザクラを献上した。また昭和28年には、両陛下が佐藤の育成したキクザクラを後楽園の延養亭の前庭にお手植えされた。その他、育成したキクザクラは岡山大学や六高記念館にも植えられ、毎年花を咲かせている。

現在、佐藤の植物標本は倉敷市立自然史博物館で、蔵書等は佐藤清明資料保存会が管理している。著作物としては、植物関係のみならず、妖怪、動物学、民俗学、方言など多方面にわたり研究を行ない多数の論文を書いているが、ここでは植物関係のみを取り上げる。佐藤は1934(昭和9)年5月に「リムルス」を発売している。以下にその著作を挙げる。

- ・植物の方言と訛語：岡山文化資料，第1巻，第5号，1929(昭和4)年
- ・植物の方言と訛語(2)：岡山文化資料，第1巻，第6号，1929(昭和4)年
- ・植物の方言と訛語(岡山県補遺)：岡山文化資

- 料，第2巻，第1号，1929(昭和4)年
- ・植物雑信(1)：まんさく，No.2，p.18~20，1930(昭和5)年
- ・植物採集目録：まんさく，No.2，p.22，1930(昭和5)年
- ・岡山縣産新植物：1930(昭和5)年
- ・六月頃に咲く山野の植物(一) 県下の生物採集動員に因みて：山陽新報，1930(昭和5)年
- ・六月頃に咲く山野の植物(二) 県下の生物採集動員に因みて：山陽新報，1930(昭和5)年
- ・六月頃に咲く山野の植物(三) 県下の生物採集動員に因みて：山陽新報，1930(昭和5)年
- ・備中戯食植物考：岡山文化資料，第3巻，第1号，1930(昭和5)年
- ・備中塩生植物目録：岡山文化資料，第3巻，第2号，1930(昭和5)年
- ・統岡山県植物方言：岡山文化資料，第3巻，第3号，1930(昭和5)年
- ・岡山縣植物方言辞典：1931(昭和6)年発行，非売品，50部限定
- ・聖上陛下と生物学：教育論叢，第26巻，第1号，1931(昭和6)年
- ・岡山県ニ於けるいたどりノ方言ノ分布：植物研究雑誌，7巻，第6号1931(昭和6)年
- ・全国馬鈴薯方言集(予報)：土俗趣味社，1931(昭和6)年
- ・全国イタドリ方言集(豫報)：愛媛県周桑郡郷土研究彙報，愛媛県周桑郡，第10号，p.1~22，1931(昭和6)年
- ・全国はこべ方言集：植物研究雑誌，7巻，第9号，1931(昭和6)年
- ・全国カヤツリグサ方言集：方言と土俗，第1巻，第12号，1931(昭和6)年
- ・岡山縣の天然記念物(1)：まんさく，No.3，p.29~35，1931(昭和6)年
- ・南備地衣類目録：まんさく，No.3，p.35~36，1931(昭和6)年
- ・備中の海濱植物：まんさく，No.3，p.39~40，1931(昭和6)年
- ・地方博物學者列傳叢書 中国 吉野善介氏篇：1932(昭和7)年
- ・近事片信：まんさく，No.6，p.75~80，1932(昭和7)年



- ・日本人に献名せる動植物の属名 博物科叢話：文教書院，1932（昭和7）年
- ・浅口郡植物誌：リムルス学会，p.23，1932（昭和7）年
- ・岡山縣に於ける蘚苔植物の研究：中等教育部總會研究発表，p.50～63，1932（昭和7）年
- ・岡山県蘚類目録：趣味の植物学界，p.9，1933（昭和8）年
- ・岡山縣蘚類目録：備作教育，第633号，岡山縣教育会，p.42～52，1934（昭和9）年
- ・岡山縣産地衣類目録：静岡県小笠郡理科同好会会報，第1號別刷，1933（昭和8）年，96種の地衣を發表
- ・近事片信（承前）：まんさく，No.7，p.119～128，1933（昭和8）年
- ・大演習と岡山縣植物：まんさく，No.8，p.1～8，1933（昭和8）年
- ・近事片信（承前）：まんさく，No.8，p.12～22，1933（昭和8）年
- ・近事片信（承前）：まんさく，No.9，p.16～21，1934（昭和9）年
- ・新讀本に現はれたる生物教材：まんさく，No.9，p.29～30，1934（昭和9）年
- ・近事片信：まんさく，No.10，p.4～12，1934（昭和9）年
- ・全国董方言集：方言，第5卷，第1号，1935（昭和10）年
- ・神秘の方言オホバコ考：植物趣味，趣味の植物学界，第4卷，第1号，p.15～19，1935（昭和10）年
- ・神秘の方言馬鈴薯考：植物趣味，趣味の植物学界，第4卷，第2号，p.12～14，1935（昭和10）年
- ・フォーリー逝きて満二十年：植物趣味，趣味の植物学界，第4卷，第2号，p.28～30，1935（昭和10）年
- ・近事片信：まんさく，No.11，p.6～18，1936（昭和11）年
- ・瀬戸内海産海藻目録：文献書房，1936（昭和11）年
- ・岡山縣に於ける菌類の研究：リムルス学会，第4卷，3号，1937（昭和12）年
- ・岡山県植物目録1：リムルス学会，1937（昭和12）年
- ・甲浦高島の植物調査：参修高島考，水原岩太郎，1940（昭和15）年
- ・臥牛山植物目録：1950（昭和25）年，難波早苗と共著
- ・後樂園の植物（1）：岡山春秋，岡山春秋社，第1卷，第1号，p.46～47，1951（昭和26）年
- ・後樂園の植物（2）：岡山春秋，岡山春秋社，第1卷，第2号，p.31～33，1951（昭和26）年
- ・岡山県の巨樹老樹：吉備植物，吉備植物研究会，第7号，p.3～6，1952（昭和27）年
- ・随筆 備中植物誌：備中の植物，第2号，p.1～3，1954（昭和29）年
- ・随筆 備中植物誌（続）：備中の植物，第3号，p.12～15，1954（昭和29）年
- ・随筆 備中植物誌（続）：備中の植物，第4号，p.1～2，1955（昭和30）年
- ・随筆 備中植物誌（続）：備中の植物，第5号，p.3～4，1955（昭和30）年
- ・随筆 備中植物誌（続）成羽の植物化石：備中の植物，第6号，p.20～22，1956（昭和31）年
- ・随筆 備中植物誌（9）阿知の藤：備中の植物，第7号，p.8～10，1956（昭和31）年
- ・随筆 備中植物誌（10）穴門山の社叢：備中の植物，第8号，p.4～6，1956（昭和31）年
- ・随筆 備中植物誌（11）多行松の自生地：備中の植物，第9号，p.8～9，1957（昭和32）年
- ・随筆 備中植物誌（12）吹屋みつば自生地：備中の植物，第10号，p.3～5，1958（昭和33）年
- ・岡山県の竹と笹：富士竹類植物園目録，富士竹類植物園，第3号，p.48～56，1958（昭和33）年
- ・天然記念物緊急調査 岡山県現存植生図説明書：1966（昭和43）年
- ・吉野善介氏の業績：吉備の植物，No.3，p.1～5，1967（昭和42）年
- ・岡山県現存植生図説明書：p.31，1968（昭和43）年
- ・岡山県植物所在地図説明書：1968（昭和43）年
- ・倉敷市の天然記念物：倉敷市教育委員会，1969（昭和44）年
- ・岡山県に自生する固有植物：清心中学校高等学校紀要，1969（昭和44）年
- ・樹草談義（一）：樹と草，岡山の樹と草の会，

- 第2号, p.1~2, 1971 (昭和46) 年
  - ・樹草談義 (二) : 樹と草, 岡山の樹と草の会, 第3号, p.1~5, 1971 (昭和46) 年
  - ・樹草談義 (三) : 樹と草, 岡山の樹と草の会, 第4号, p.1~11, 1971 (昭和46) 年
  - ・樹草談義 (四) : 樹と草, 岡山の樹と草の会, 第5号, p.1~9, 1971 (昭和46) 年
  - ・樹草談義 (五) : 樹と草, 岡山の樹と草の会, 第6号, p.2~9, 1972 (昭和47) 年
  - ・樹草談義 (六) : 樹と草, 岡山の樹と草の会, 第7号, p.2~6, 1972 (昭和47) 年
  - ・岡山県に自生する固有植物 発見と当時の挿話 : 植物手帖, 第119号, p.2~3, 1976 (昭和51) 年
  - ・岡山県に自生する固有植物 発見と当時の挿話 (2) : 植物手帖, 第121号 p.6~7, 1976 (昭和51) 年
  - ・岡山県に自生する固有植物 発見と当時の挿話 (3) : 植物手帖, 第122号 p.2~3, 1976 (昭和51) 年
  - ・世界の国花 : 清心中学校高等学校紀要, 1977 (昭和52) 年
  - ・岡山県に自生する固有植物 発見と当時の挿話 (4) : 植物手帖, 第133号 p.4~5, 1977 (昭和52) 年
  - ・岡山県に自生する固有植物 発見と当時の挿話 (5) : 植物手帖, 第134号 p.2~3, 1977 (昭和52) 年
  - ・岡山県に自生する固有植物 発見と当時の挿話 (6) : 植物手帖, 第135号 p.4~5, 1977 (昭和52) 年
  - ・岡山県に自生する固有植物 発見と当時の挿話 (7) : 植物手帖, 第136号 p.2~3, 1977 (昭和52) 年
  - ・岡山県に自生する固有植物 発見と当時の挿話 (8) : 植物手帖, 第145号 p.2~3, 1978 (昭和53) 年
  - ・世界の国花 : 清心中学校高等学校紀要, 1979 (昭和54) 年
  - ・佐伯町の天然記念物 : 和気郡北部教育委員会 1976 (昭和51) 年
  - ・矢掛町の天然記念物 第1輯 : 岡山県教育委員会, 1972 (昭和47) 年
  - ・加茂川町の天然記念物 第2輯 : 岡山県教育委員会, 1972 (昭和47) 年
  - ・倉敷市の天然記念物 第2輯 : 倉敷市教育委員会, 1972 (昭和47) 年
  - ・津山市の天然記念物第1輯 : 津山市教育委員会, 1973 (昭和48) 年
  - ・吉永町の天然記念物 : 吉永町中央公民館, 1978 (昭和53) 年4月, 加藤豊, 花田親兵衛が予備調査を行う
  - ・岡山県野生植物目録 : 清心中学校高等学校紀要, 1979 (昭和54) 年
  - ・県南 里庄町の湿原フロラ : 岡山県植物研究会誌, 第1号, p.15~21, 1982 (昭和57) 年, 安原清隆と共著
  - ・岡山県野生植物目録 : 1979 (昭和54) 年
  - ・岡山県野生植物目録 : 羊歯・蘚・苔・地衣, 1982 (昭和57) 年
  - ・岡山の花と木 : 岡山の自然と文化1, 岡山県郷土文化財団, p.44~53, 1982 (昭和57) 年
  - ・岡山県野生植物目録 : 岡山県植物研究会誌, 第2号, p.5~49, 1983 (昭和58) 年
  - ・岡山後樂園主要植物解説 : 出版年不明
- また、「よき母 : 1933 (昭和8) 年10月」を発行している。これは植物関係ではないが、佐藤の考えを知ることができるものと思い取り上げる。この「よき母」は佐藤の残した資料の中から発見された、20頁の小冊子であるが、内外の著名な人の母53人のエピソードが書かれている。添付の挨拶状には『ご入用の向へは実費10銭で頒つ』とあり、『姉妹篇として「よき妻」を続刊の予定』と書いているが、発刊されたかどうかは不明である。「よき母」については、小坂弘は「まんさく, No.9, p.36~37, 1934 (昭和9) 年, 吉備博物同好会」の紹介コーナーで「よき母」(佐藤清明氏)として、以下のように紹介しているので引用する。『「今回島田ミヤコと結婚仕り左記に移轉致候此段御通知申上候岡山市内山下石山一〇 佐藤清明」と記されたカブトガニ雌雄を寫した美しい繪葉書とともにとどけられたのがこの書で更に緑色の紙片に次の様子に書かれてあった。「幼くして父に別れ, 母の手のみに依って, 育った一人子の私も茲に二十九の秋を迎えて, とうとう結婚する事になった。然し, 非常時の現下, 殊に薄給の貧書生

にはこれといふ、御披露の途も無い。そこで所謂冗費を節して、この貧弱なるパンフレットを作り、親しき方々へ記念の為に贈り、一つにはご披露に代へ、二には私のみならず廣く世の母親に向って感謝の意を表する事にした。御利用を乞へば幸甚である。」と…藤井大将の母を初め東西古今の母の愛をたたえ、最後に「あゝ人間此の世に出現して以来幾千年。そして且つ母たりし女性果して幾百億。それ等の力こそ誠に生命の根源であった。文字通り全人類の慈母であった。」と叫んで筆をおいてある。』と紹介している。このように佐藤は母親に育てられた事に感謝の念を持ち、歴史に出てくる母親についてのエピソードを書いて、母たる女性への感謝を述べており、佐藤の人柄が偲ばれる。

### (8) 難波早苗 (なんばさなえ)

難波早苗は1913(大正2)年上房郡豊野村で出生、1998(平成10)年に没した。1932(昭和7)年新見農林学校卒業後、岡山県職員となり、農事試験場、県下の農業改良普及所に勤務し1969(昭和44)年に県を退職した。

植物について吉野善介の指導を受け、岡山県内をくまなく歩き調査した。1952(昭和27)年、高梁市においてタカハシテンナンショウを発見した。大久保一治、古屋野寛と難波早苗の3人が県下を一番良く歩いた人だと思ふ。難波の標本11,000点は岡山県自然保護センターに、学会誌など12,360冊の蔵書は岡山県立図書館に難波文庫として収蔵された。

「備中植物研究」を発行しているが、『吉野善介が第1回岡山県文化賞を受賞したことを機に、備中植物の知識を普及するため吉野善介の原稿をもとに「備中植物研究」を発行する』とまえがきに記してある。第1号は1949(昭和24)年6月20日であるが、以後の発行については不明である。吉野善介は吉野日暮生と称して第1号に「備中植物新報知」を書いている。以下に難波早苗の論文を記す。

- ・水田畑地雑草圖譜：岡山県立農事試験場内朋友会、1949(昭和24)年
- ・備中に於ける農耕地雑草の種類と推移に関する研究：1950(昭和25)年

- ・臥牛山植物目録：1950(昭和25)年、佐藤清明共著
- ・臥牛山國有林植物目録：新見営林署、1951(昭和26)年、佐藤清明共著
- ・備中の名を冠する植物：備中の植物、第1号、p.8～10、1953(昭和28)年
- ・伝説の植物：備中の植物、第2号、p.8～9、1954(昭和29)年
- ・備中植物採集雑記：備中の植物、第3号、p.18～20、1954(昭和29)年
- ・備中臥牛山と安藝巖島の植物：備中の植物、第4号、p.9～10、1955(昭和30)年
- ・備中川上郡磐窟溪の植物：備中の植物、第5号、p.7、1955(昭和30)年
- ・美作の地でヤマトレンギョウを採る：美作の自然、創刊号、p.8、1955(昭和30)年
- ・岡山県における野生「まめ科」植物の調査：岡山県農業試験場、1955(昭和30)年
- ・植物採集雑記：備中の植物、第7号、p.12～14、1956(昭和31)年
- ・岡山県内の石灰岩地帯の植物：備中の植物、第8号、p.10～11、1956(昭和31)年
- ・植物採集雑記：美作の自然、第二号、p.18、1956(昭和31)年
- ・美作の植物に関する文献：美作の自然、第三号、p.12、1957(昭和32)年
- ・岡山県総社市池田地区内における砂防工事地域の植物相：備中の植物、第9号、p.9～12、1957(昭和32)年
- ・岡山大学農学部構内(岡山市津島)の外来植物：備中の植物、第10号、p.5～7、1958(昭和33)年
- ・美作産植物覚書：美作の自然、第五号、p.22～24、1959(昭和34)年
- ・岡山県真庭郡落合町塩滝附近の植物：美作の自然、第六号、p.27、1960(昭和35)年
- ・岡山県樹木目録：岡山県林業試験場、1960(昭和35)年
- ・岡山県樹木目録：吉備植物研究会、1960(昭和35)年
- ・岡山県高梁市臥牛山國有林植物目録：高梁市役所、1955(昭和30)年
- ・同上、1980(昭和55)年

- ・岡山の植物新知見(一):吉備の植物, No.1, p.1~2, 1966(昭和41)年
- ・岡山の植物新知見(二):吉備の植物, No.2, p.20, 1967(昭和42)年
- ・岡山の植物新知見(三):吉備の植物, No.3, p.13~14, 1967(昭和42)年
- ・岡山の植物新知見(四):吉備の植物, No.4, p.6, 1967(昭和42)年
- ・岡山の植物新知見(五):吉備の植物, No.5, p.7, 1968(昭和43)年
- ・岡山の植物新知見(六):吉備の植物, No.6, p.3~4, 1968(昭和43)年
- ・岡山の植物新知見(七)吉備の植物 No.7, p.5, 1968(昭和43)年
- ・ヤマトレンギョウの花は他のレンギョウ類より花の期間が短い:吉備の植物, No.8, p.1, 1969(昭和44)年
- ・岡山の植物新知見(八):吉備の植物, No.8, p.6, 1969(昭和44)年
- ・岡山の植物新知見(九):吉備の植物, No.9, p.3, 1970(昭和45)年
- ・岡山の植物新知見(十):吉備の植物, No.10, p.8~9, 1970(昭和45)年
- ・岡山の植物新知見(十一):吉備の植物, No.11, p.8, 1971(昭和46)年
- ・岡山県立森林公園の植物:岡山県営林事務, 1979(昭和54)年
- ・岡山大学農業生物研究所所蔵植物標本目録:1980(昭和55)年
- ・第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書:岡山県, 難波早苗が総括責任者, 中原清士, 西原禮之助, 波田善夫, 藤原和男が担当
- ・岡山県で採集したシダ植物:岡山理科大学蒜山研究所, 1981(昭和56)年
- ・岡山県の植物:津山社会教育文化財団津山科学教育博物館, 1981(昭和56)年
- ・岡山県におけるタブノキの分布について:岡山県植物研究会誌, 第1号, p.9~10, 1982(昭和57)年
- ・シラガブドウ覚書:岡山県植物研究会誌, 第3号, p.31~33, 1984(昭和59)年
- ・岡山県立森林公園の植物:岡山県営林事業所, 1959(昭和54)年

- ・岡山県内にある二三の社叢:岡山県植物研究会誌, 第4号, p.15~16, 1985(昭和60)年
- ・岡山県の植物雑記:岡山県植物研究会誌, 第5号, p.8~10, 1986(昭和61)年
- ・臥牛山の植物:岡山県植物研究会誌, 第8号, p.22~24, 1989(平成元)年
- ・岡山の楷の木と菊桜:出版社不明1992(平成4)年
- ・岡山県内に自生する特殊な植物:岡山県環境保全事業団, 1993(平成5)年

### (9) 横溝熊市(よこみぞくまいち)

横溝熊市の生年は不詳, 1977(昭和52)年10月27日に没した。浅口郡里庄村里見で薬種商を営む傍ら植物の研究を行っていた。1954(昭和29)年に鴨方北方の山地でエヒメアヤメを発見し, 佐藤清明に連絡した。小坂弘が「まんさく, No.8, p.31 1933(昭和8)年10月1日, 吉備博物同好会」の紹介コーナーで「横溝熊市氏の標本蒐集熱」として『氏の植物標本蒐集熱は非常なもので本業の薬種商は殆どなげうってでも後半生を採集のために費して学界に貢献されやうとの真剣な努力は実に涙ぐましいものがある』と賞賛した。また、『備中南部, 北部, 伯耆大山, 備後北部など採集され, 多数の標本を蔵されている』, 『横溝氏は国内の植物壺万数千種の中, 先ず第一期は6,000種を目標に集めたいと言っている』と書いている。

以下に横溝熊市の論文を記す。

- ・薬用植物漢和名辞典:発行年月日不明, 50部印刷
- ・岡山県の薬用植物:発行年月日不明
- ・植物腊葉標本所持品目録:1932(昭和7)年
- ・植物腊葉標本所持品目録 補遺其一:1933(昭和8)年
- ・石鎚山登山記:まんさく, No.9, p.22~25, 1934(昭和9)年
- ・エヒメアヤメ備中に産す:備中の植物, No.4, p.8~9, 1955(昭和30)年
- ・フウトウカズラとナミキソウ:吉備の植物, No.1, p.13, 1966(昭和41)年
- ・笠岡諸島とその周辺の植物:吉備の植物, No.3, p.11~12, 1967(昭和42)年

**(10) 坪井近三 (つぼいきんぞう)**

坪井近三についての生年、没年は不詳である。都窪郡吉備町に住み、高松農学校に勤務した。1950 (昭和25) 年から1960 (昭和35) 年まで山陽学園に講師として勤務した。

以下に坪井近三の論文を記す。

- ・「吉備郡産有用植物誌」：岡山縣高松農学校 1934 (昭和9) 年
- ・備前植物仮目録：1957 (昭和32) 年10月
- ・備前植物目録：1960 (昭和35) 年
- ・岡山県備前植物目録：1960 (昭和35) 年6月
- ・郷土に於ける植物の変遷について：備中の植物, 第7号, p.10~11, 1956 (昭和31) 年
- ・他山の石 (香川県雌木島の植物)：備中の植物, 第9号, p.12~13, 1957 (昭和32) 年
- ・作州路行脚：美作の自然, 第六号, p.1~3, 1960 (昭和35) 年

**(11) 西原禮之助 (にしはられのすけ)**

西原禮之助は、岡山市南方において1915 (大正4年) 11月27日に出生、1994 (平成6年) 4月4日に没した。1939 (昭和14) 年早稲田大学商学部卒業後、入隊し1941 (昭和16) 年陸軍経理学校丙種学生を卒業。戦地に赴き、フィリピンのレイテ島より帰還している。「自分は植物の研究をしていたので食べるものが無くなってもどんな草が食べられるか判断がついたので助かった」と筆者に話したことがあった。お多美鶴酒造株式会社の社長であり、岡山市文化財保護審議会会長など公職を多数勤めた。このことにより岡山市有功表彰、藍綬褒章、また1993 (平成5) 年には勲五等双光旭日章を受章した。

植物に関する造詣が深く、1967 (昭和42) 年10月には湯原ダム湖畔で昭和天皇皇后両陛下に現地植物についてご進講した。牧野富太郎をはじめとする東京や京都の植物研究者また大学関係者との太い繋がりを持っていた。酒造会社の経営や多くの公職をこなしながら岡山県植物研究会の第2代の会長として、会を統括し、観察会を行なうなど植物研究者の集まりの世話を良くした。西原の多くの蔵書は牧野富太郎との縁戚関係により高知県立牧野植物園に収蔵された。

以下に西原禮之助の論文を記す。

- ・分類・分布上注意すべき岡山縣産植物について：野草, Vol.2, No.2, No.4, No.5, 1936 (昭和11) 年
- ・東都植物採集記：まんさく, No.11, 1936 (昭和11) 年
- ・岡山県植物目録1菊花ノ部 岡山県植物誌, リムルス 第4巻第5号 別冊, 1937 (昭和12) 年
- ・本州西部に分布するフウロサウ属：1939 (昭和14) 年
- ・岡山県フロラ探察略史：1937 (昭和12) 年, 出版者不明
- ・岡山の植物：日本文教出版株式会社, 1963 (昭和38) 年
- ・岡山の樹木：同上, 1981 (昭和56) 年
- ・岡山の植物：岡山の自然と文化, 郷土文化講座からⅢ, 岡山県郷土文化財団, p.116~145, 1984 (昭和59) 年
- ・アッケシソウに就いて：岡山県植物研究会誌, 第3号, p.1, 1984 (昭和59) 年
- ・岡山県植物雑報 (1)：岡山県植物研究会誌, 第4号, p.1~2, 1985 (昭和60) 年
- ・岡山県植物探察史：岡山県植物研究会誌, 第5号, p.1~2, 1986 (昭和61) 年
- ・岡山県植物探究史 (資料) (2)：岡山県植物研究会誌, 第7号, p.19~20, 1988 (昭和63) 年
- ・岡山県のコウヤミズギについて：岡山県植物研究会誌第8号, p.9~11, 1989 (平成元) 年, 安原清隆, 花田親兵衛共著
- ・岡山県フロラ探察史史料：岡山県植物研究会誌, 第9号, p.1~2, 1990 (平成2) 年
- ・ハリイ属ヒメシカクイ：岡山県植物研究会誌, 第9号, p.26~28, 1990 (平成2) 年, 安原清隆共著
- ・岡山県のスミレ (予報)：岡山県植物研究会誌, 第11号, p.1~8, 1992 (平成4) 年
- ・天皇陛下と岡山の植物：岡山県植物研究会誌, 第13号, 1994 (平成6) 年

**(12) 大久保一治 (おおくほいちじ)**

大久保一治は1907 (明治40) 年3月5日に瀬戸町 (旧可真村山の池) で出生、没年は不詳である。1931 (昭和6) 年東京高等師範学校卒業後高知、

札幌で教職に就く。岡山県に帰り、高校教諭となり1966(昭和41)年瀬戸高校を退職した。

岡山花の会を主宰し、機関紙「もも・もみじ」を毎月発行し、県内外へマイクロバスを仕立て、会員対象の観察会をたびたび行なった。また、岡山県内をくまなく歩き調査を行なった。著作の「私の採集した岡山県自然植物目録付帰化植物・栽培植物 増補改訂版」は県下全域を実地に歩いた結果であり貴重な目録である。1926(大正15)年に上房郡上水田村でピッチュウヒカゲワラビを発見した。また1927(昭和2)年には瀬戸町でビゼンナリヒラを発見したが、これは牧野富太郎によって命名された。大久保の標本は倉敷市立自然史博物館に収蔵されている。

以下に大久保一治の論文を記す。

- ・岡山県帰化植物目録 昭和36年：1961(昭和36)年
- ・岡山県栽培植物目録：岡山花の会，1965(昭和40)年
- ・備前の植物：吉備の植物，No.2，p.1～3，1967(昭和42)年
- ・備前の植物(2)：吉備の植物，No.3，p.15～17，1967(昭和42)年
- ・備前の植物(3)：吉備の植物，No.4，p.3～5，1967(昭和42)年
- ・備前の植物(4)：吉備の植物，No.5，p.3～5，1968(昭和43)年
- ・倉敷市鶴形山産のものはツルコウジではなくオオツルコウジである：吉備の植物，No.5，p.9，1968(昭和43)年
- ・備前の植物(5)：吉備の植物，No.6，p.5～7，1968(昭和43)年
- ・備前の植物(6)：吉備の植物，No.7，p.6～8，1968(昭和43)年
- ・備前の植物(7)：吉備の植物，No.8，p.2～4，1969(昭和44)年
- ・備前の植物(8)：吉備の植物，No.9，p.4～7，1970(昭和45)年
- ・備前の植物(9)：吉備の植物，No.10，p.5～7，1970(昭和45)年
- ・岡山県栽培植物目録 補遺1：岡山花の会，1970(昭和45)年
- ・備前の植物(10)：吉備の植物，No.11，p.9～

11，1971(昭和46)年

- ・岡山県歌人作品集の植物：岡山県植物研究会誌，第1号，p.11～15，1982(昭和57)年
- ・日生諸島の植物について：岡山県植物研究会誌，第3号，p.4～7，1984(昭和59)年
- ・前島の植物：岡山県植物研究会誌，第4号，p.12～15，1985(昭和60)年
- ・続岡山県歌人作品集の植物：岡山県植物研究会誌，第5号，p.22～26，1986(昭和61)年
- ・私の採集した岡山県自生植物目録 平成元年：岡山花の会，1989(平成元年)年
- ・岡山県の鳥々の植物：岡山県植物研究会誌，第8号，p.1～3，1989(平成元年)年
- ・牧野先生を思い起こす植物：岡山県植物研究会誌，第11号，p.18～20，1992(平成4)年
- ・私の採集した岡山県自然植物目録付帰化植物栽培植物 増補改訂版：1999(平成11)年
- ・岡山県植物雑話：岡山県植物研究会誌，第12号，p.1～3，1993(平成5)年
- ・岡山県にもノジギクが僅かに自生している：岡山県植物研究会誌，第13号，p.42～43，1994(平成6)年

### (13) 加藤豊(かとうゆたか)(旧姓山口)

加藤豊は阿哲郡新砥村大字田淵で1917(大正6)年3月24日に出生，1988(昭和63)年1月15日に没した。上記(6)山口國太郎の子息である。1937(昭和12)年岡山師範学校卒業後，県下の小中高校の校長を歴任し，岡山県立養護高等学校長で退職した。退職後，順正短期大学の講師を勤める。加藤が元勤務した現岡山市立馬屋上小学校には校有林があるので，ここを自然公園，ビオトープに整備した。また，県下の理科教員の知識向上の為，毎年，植物や地学などの巡検を行なうなど後輩の指導をよく行なった。

以下に加藤豊の論文を記す。

- ・東山丘陵の植物目録：1937(昭和12)年
- ・岡山県薬用植物目録の編集：1965(昭和40)年
- ・津高町植物目録：津高町教育委員会，1962(昭和37)年
- ・岡山県花 モモ：岡山県植物研究会誌，第1号，p.22～23，1982(昭和57)年
- ・岡山の食用植物：岡山の自然と文化，郷土文

化講座から1, 岡山県郷土文化財団, p.189~205, 1982 (昭和57) 年

- ・岡山県の天然記念物—植物之部：岡山県植物研究会誌, 第5号, p.10~13, 1986 (昭和61) 年
- ・岡山県の天然記念物 (植物)：岡山県植物研究会誌, 第7号, p.13~18, 1988 (昭和63) 年
- ・岡山の天然記念物：岡山の自然と文化, 郷土文化講座から7, 岡山県郷土文化財団, p.25~58, 1988 (昭和63) 年

#### (14) 井木長治 (いぎちょうじ)

井木長治は倉敷市本町出身で, 1929 (昭和4) 年5月8日に出生, 1995 (平成7) 年4月30日に没した。

コケの研究を専門とし, 1951 (昭和26) 年に新見市羅生門の石灰岩壁で北方系の遺存種とも考えられるイギイチョウゴケ (イギイチョウウロコゴケ) を発見した。会計事務所に勤務しながら, 自宅でコケの研究を行なった。一緒に行った観察会では一般植物の観察が終わっても, 井木はコケを観察するので出発点から数メートルしか進んでない状況であった。1992 (平成4) 年10月「岡山コケの会」を設立し, 後輩のコケ研究者の面倒を良くみた。会は, その後全国組織となり発展している。

以下に井木長治の論文を記す。

- ・植物研究録：No.2, 1951 (昭和26) 年
- ・倉敷のタデ：岡山の植物, No.1, p.10~11, 1947 (昭和22) 年
- ・倉敷の羊歯：岡山の植物, No.2, p.4~5, 1948 (昭和23) 年
- ・備中石灰岩地の蘚苔類Ⅱ：備中の植物, 第6号, p.22~26, 1956 (昭和31) 年
- ・阿哲郡石灰岩地域の蘚苔類：備中の植物, 第9号, p.1~7, 1957 (昭和32) 年
- ・岡山県の蘚類目録 (その1)：美作の自然, 第三号, p.25~32, 1957 (昭和32) 年
- ・岡山県の蘚類目録 (その2)：美作の自然, 第四号, p.22~28, 1958 (昭和33) 年
- ・勝田郡奈義山系の蘚苔類：美作の自然, 第七号, p.6~7, 1961 (昭和36) 年
- ・クマノゴケの蒴について：岡山県植物研究会誌, 第1号, p.24~25, 1982 (昭和57) 年
- ・矢掛町とその付近の苔類：岡山県植物研究会

誌, 第3号, p.18~23, 1984 (昭和59) 年, 滝尾進, 木口博史と共著

- ・和気郡吉永町の苔類：岡山県植物研究会誌, 第3号, p.23~30, 1984 (昭和59) 年, 花田親兵衛と共著
- ・CHECKLIST OF BRYOPHYTES OF OKASYAMAENSIS：岡山県植物研究会誌, 第4号, p.19~28, 1985 (昭和60) 年
- ・岡山県のコケ植物：岡山県植物研究会誌, 第9号, p.3~4, 1990 (平成2) 年

#### (15) 花田親兵衛 (はなだしんべい)

花田親兵衛は佐伯町丸山の出身である。1920 (大正9) 年4月に出生, 2001 (平成13) 年10月に没した。1942 (昭和17) 年に岡山師範学校を卒業後, 小学校教諭となり, 作東町立福山小学校校長, 吉井町立仁堀小学校校長などを歴任し, 1991 (平成3) 年に佐伯町立山田小学校校長を最後に退職した。その後1991 (平成3) 年7月から1993 (平成5) 年3月31日まで岡山県自然保護センターに研究員として勤務した。岡山県植物研究会の事務局長として会誌, 会報の編集や観察会の企画にあたった。植物のみならず, 和気郡の歴史や民俗学の研究を行った。また, 地域振興のため製薬会社とミシマサイコの契約栽培の誘致を行なった。栽培が行なわれたが, 土壌が合わず数年で中止となった。また, 田土梅や山椒の実の栽培を推進した。

以下に花田親兵衛の論文を記す。

- ・花見とサクラ：発行年月日不明
- ・和意谷植物目録：1953 (昭和28) 年
- ・熊山植物目録：1953 (昭和28) 年
- ・和気郡日生諸島の植物：和気町立和気小学校, 1954 (昭和29) 年
- ・予報—植物化石を産する八神層の地質に関する一考察：1967 (昭和42) 年
- ・天神山の植物 (木本の部) 浦上宗景の居城跡：1979 (昭和54) 年
- ・岡山県産有毒植物抄：1981 (昭和56) 年
- ・岡山県の植物Ⅱキビヒトリシズカ：岡山県植物研究会誌, 第2号, p.4, 1983 (昭和58) 年
- ・東備地域史跡名勝地の樹木：岡山県東備地方振興局, 1987 (昭和62) 年, 万波茂と共著
- ・熊山の植物相概要 (その1)：岡山県植物研究会

- 誌, 第7号, p.21~22, 1988 (昭和63) 年
- ・熊山の植物相概要 (その2) 岡山県植物研究会誌, 第8号, p.7~8, 1989 (平成元) 年
- ・岡山県のコウヤミズキについて: 岡山県植物研究会誌, 8号, p.9~11, 1989 (平成元) 年, 安原清隆, 西原禮之助共著
- ・日生諸島の植物と鹿久居島の湿原植生: 岡山県植物研究会誌, 第8号, p.12~17, 1989 (平成元) 年
- ・長船町桂山周辺の植物 (小報1): 岡山県植物研究会誌, 第9号, p.10~14, 1990 (平成2) 年
- ・鯉ヶ窪の植生: 岡山県植物研究会誌, 第10号, p.16~18, 1991 (平成3) 年
- ・吉井町黒本より是里に至る本村道沿線の植物について: 岡山県植物研究会誌, 第10号, p.19~21, 1991 (平成3) 年
- ・ヤマンバナカミノケ=ウマノタケ: 岡山県植物研究会誌, 第11号, p.29~31, 1992 (平成4) 年
- ・十二支にちなんだ植物名: 1992 (平成4) 年
- ・郷土岡山の植物: 1996 (平成8) 年

#### (16) 杉原操 (すぎはらみさお)

杉原操は、興除村出身であるが、生年、没年不詳である。岡山県に奉職し岡山県岡山農林事務所長を勤めた。岡山県植物研究会の世話をよくした。論文としては、口羽美智子と共著で「岡山県における *Isopyrum pterigionocaudatum* Koids の自生について: 岡山県植物研究会誌, 第4号, p.29~30, 1985 (昭和60) 年」がある。

#### (17) 徳山鍬也 (とくやまてつや)

徳山鍬也は、真庭市蒜山の出身であるが、生年、没年は不詳である。真庭郡川上中学校等に勤務した。1988 (昭和63年) 自然保護に尽くしたことにより藍綬褒章を受賞した。「蒜天」と自称し、蒜山の自然保護に尽くし、「蒜山の花の写真展」を長年にわたり岡山のデパートで開催するなど活躍した。

以下に徳山鍬也の論文を記す。

- ・採集狂時代に対する抗議: 美作の自然, 第二号, p.17, 1956 (昭和31) 年
- ・蒜山の高山植物: 美作の自然, 第二号, p.18, 1956 (昭和31) 年

- ・蒜山方言植物目録: 1966 (昭和41) 年
- ・植物異問その他: 岡山県植物研究会誌, 第3号, p.43~45, 1984 (昭和59) 年
- ・蒜山の植生: 岡山県植物研究会誌, 4号, p.17~18, 1985 (昭和60) 年
- ・蒜山地方の自然と食文化: 岡山の自然と文化, 郷土文化講座から, 岡山縣郷土文化財団, p.89~132, 1989 (平成元) 年
- ・私の採集した蒜山の植物: 2009 (平成21) 年, 非売品

#### (18) 押柄慎吾 (おしえしんご)

押柄慎吾は、真庭郡落合町野山の出身で、生年、没年は不詳である。1932年 (昭和7) 年徳島高等工業学校 (現徳島大学薬学部) 卒業の薬剤師であるが、教職に就き、小学校, 中学校教員, 久米町立米来小学校長, 真庭市立富原中学校長を歴任した。学校を退職後は医薬品卸会社に管理薬剤師として勤務した。岡山県植物研究会の会議での振舞から厳格な人である印象を受けた。

以下に押柄慎吾の論文を記す。

- ・私の採集した植物目録 1946 (昭和21) 年~1959 (昭和34) 年 の間の採集: 1960 (昭和35) 年
- ・真庭植物目録: 真庭郡理科教育研究会, 押柄慎吾編, 各務要, 為本米男と共著
- ・真庭郡神庭地区植物目録 (第一報): 美作の自然, 第七号, p.9~27, 1961 (昭和36) 年, 為本米男と共著
- ・野原, 舞高地区植物 (草本のみ) について: 美作の自然, 第八号, p.3~10, 1962 (昭和37) 年
- ・オオフジシダ美作にあり: 吉備の植物, No.1, p.15, 1966 (昭和41) 年
- ・日本植物腊葉標本目録: 美作女子大学短期大学部幼児教育学科, 1980 (昭和39) 年, 1946 (昭和21) 年から1980 (昭和55) 年 の間に押柄慎吾が採集した植物の目録
- ・勝山助城山太鼓山の植物 (1): 吉備の植物, No.4, p.12~14, 1967 (昭和42) 年
- ・勝山助城山太鼓山の植物 (2): 吉備の植物, No.5, p.17~22, 1968 (昭和43) 年
- ・アレチマツヨイグサを真庭郡内で採る: 吉備の植物, No.7, p.16~17, 1968 (昭和43) 年



- ・帰化植物図譜と日本雑草図説：吉備の植物，No.7, p.23~24, 1968 (昭和43) 年
- ・美作後山の植物：吉備の植物，No.10, p.12~13, 1970 (昭和45) 年

### (19) 本位田隣太 (ほんいでんりんた)

本位田隣太は出身地，生年，没年は不詳である。英田郡西粟倉小学校の校長を勤めた。県内最高峰の後山について植物などの調査を行なった。

以下に本位田隣太の論文を記す。

- ・後山の生物について：美作の自然，創刊号，p.14, 1955 (昭和30) 年
- ・雨の大茅採集会の報告：美作の自然，第二号，p.1~5, 1956 (昭和31) 年
- ・西粟倉村の植物目録：英田郡西粟倉小学校，1956 (昭和31) 年，岳山利夫と共著
- ・西粟倉村の植物目録：英田郡西粟倉小学校，改訂，1958 (昭和33) 年，岳山利夫と共著
- ・後山を中心とした植物鳥類目録：1983 (昭和58) 年

### (20) 岳山利夫 (がくやまとしお)

岳山利夫は，出身地，生年，没年は不詳である。前述の本位田隣太が校長を勤める英田郡西粟倉小学校に勤務した。後に，東粟倉村教育長を務めた。

本位田隣太とともに「英田郡西粟倉村小学校西粟倉村の植物目録：1956 (昭和31) 年」と「英田郡西粟倉村小学校 西粟倉村の植物目録：改訂1958 (昭和33) 年」をまとめた。

### (21) 中村順平 (なかむらじゅんぺい)

中村順平は，川上郡川上町高山に1923 (大正12年) 12月に生まれ，1995 (平成7年) に没した。小学校教諭として勤務し，成羽小学校長で退職した。

以下に中村順平の論文を記す。

- ・弥高地区植物目録：1961 (昭和36) 年
- ・備中町植物目録：備中町教育研修所，1963 (昭和38) 年
- ・成羽の自然植物篇：成羽町教育研修所，1964 (昭和39) 年
- ・備中平川附近の植物：吉備の植物，No.2, p.14~15, 1967 (昭和42) 年
- ・備中町とその付近の植物：吉備の植物，No.6,

p.1~2, 1968 (昭和43) 年

- ・岡山県西部県境付近の植物：吉備の植物，No.7, p.14~15, 1968 (昭和43) 年

### (22) 三宅一喜 (みやけかずよし)

三宅一喜の出身地，生年，没年は不詳である。東京農業大学農学科を1943 (昭和18) 年に卒業，岡山県立矢掛，井原，加茂川，精研高校の教諭として勤務した。岡山博物同好会副会長兼生物・園芸部会長，そして岡山県自然愛護協会会長となるが，植物関係者との連携は少なかった。

以下に三宅一喜の論文を記す。

- ・備西の植物1：岡山博物同好会備西支部，1969 (昭和44) 年
- ・備西の植物2：岡山博物同好会備西支部，1970 (昭和45) 年
- ・吉備の植物：岡山植物同好会，1973 (昭和48) 年
- ・岡山県の植物文化財：岡山県自然保護協会，1981 (昭和56) 年
- ・全国の天然記念物調査：三宅一喜，1990 (平成2) 年
- ・全国の奇樹・珍種：岡山県自然愛護協会，1995 (平成7) 年
- ・稀少植物園の絶滅危惧種：三宅一喜，2002 (平成14) 年
- ・全国の調査巨樹順位：岡山県自然愛護協会 2006 (平成18) 年
- ・井原・後月の植物記Ⅰ：発行年月日不明
- ・井原・後月の植物記Ⅱ：発行年月日不明
- ・井原・後月の植物記Ⅲ：発行年月日不明

### (23) 堀口正志 (ほりぐちまさし)

堀口正志は上房郡大和村宮地の出身であるが生年，没年は不詳である。小学校教諭として大和村立大和小学校に勤務した。地域では博学の先生として慕われおり，私の祖父の話によると，大和村内でオウレン，カザグルマ，ミコシギクなどの自生地を案内してもらったということであった。

「ミコシギクとサクラバハノキ：吉備の植物，No.1, p.11~12, 1966 (昭和61) 年」および「大和村史賀陽町史追補：大和公民館，1995 (平成7) 年」を著している。

## (24) 宗田克巳 (そうだかつみ)

宗田克巳は1911(明治44)年井原市木之子に生まれる。没年は不詳である。1929(昭和4)年興讓館中学校を卒業、10月に第六高等学校助手となる。1930(昭和5)年文部省検定鉱物科に合格した。県立高校教諭、岡山大学講師をつとめた。専門は地質学であるが博学の人であり、岡山県植物研究会の会議で古武士然としていたことが印象深い。

以下に宗田克巳の論文を記す。

- ・新考岡山県地理読本：文正社書店，1934(昭和9)年
- ・高梁川：日本文教出版株式会社，1974(昭和49)年
- ・吉備高原：日本文教出版株式会社，1975(昭和50)年
- ・私と植物趣味：岡山県植物研究会誌，第1号，p.39~42，1982(昭和57)年
- ・岡山における生ける化石植物：岡山県植物研究会誌，第3号，p.15~17，1984(昭和59)年
- ・岡山県の古植物：岡山県植物研究会誌，第6号，p.52~53，1987(昭和62)年
- ・百卉珍味：岡山県植物研究会誌，第11号，p.32~36，1992(平成4)年

## (25) 高田真一 (たかたしんいち)

高田真一は、川上郡成羽町中野の出身であるが、生年、没年は不詳である。平川中学校、湯野中学校、備中町立西山小学校等に勤務した。川上郡や石灰岩地帯を中心とする植物を調査し、自宅に植物園を設けていた。

以下に高田真一の論文を記す。

- ・湯野村のコケ植物：備中の植物，第7号，p.11~12，1956(昭和31)年
- ・吉川植物目録：備中の植物，第10号，p.8~11，1958(昭和33)年
- ・岡山市の帰化植物：吉備の植物，No.1，p.6~7，1966(昭和41)年
- ・賀陽産の淡水産藻2種：吉備の植物，No.1，p.14，1966(昭和41)年
- ・吉備高原と中国山地の植物：吉備の植物，No.2，p.4~7，1967(昭和42)年
- ・備中の稀産植物：吉備の植物，No.2，p.12~

13，1967(昭和42)年

- ・丸滝坂の植物：吉備の植物，No.3，p.8，1967(昭和42)年
- ・吉備高原(川上台地)の稀産植物：吉備の植物，No.3，p.24~25，1967(昭和42)年
- ・吉備高原(川上台地)の稀産植物(承前)：吉備の植物，No.4，p.1~2，1967(昭和42)年
- ・九竜谷の植物：吉備の植物，No.4，p.8，1967(昭和42)年
- ・白花品と赤花品：吉備の植物，No.4，p.11，1967(昭和42)年
- ・備中磐窟溪の植物：吉備の植物，No.5，p.8，1968(昭和43)年
- ・植物座談会のこと：吉備の植物，No.5，p.10~11，1968(昭和43)年
- ・吉備高原(川上台地)の稀産植物(3)：吉備の植物，No.6，p.9~10，1968(昭和43)年
- ・大井博士の日本植物誌(改訂新版)とその英文版：吉備の植物，No.6，p.19~20，1968(昭和43)年
- ・夫婦岩周辺の植物：吉備の植物，No.7，p.4~5，1968(昭和43)年
- ・吉備高原(川上台地)の稀産植物(4)：吉備の植物，No.7，p.12~13，1968(昭和43)年
- ・ヒメツルソバ逸出化す：吉備の植物，No.8，p.5，1969(昭和44)年
- ・吉備高原(川上台地)の稀産植物(5)：吉備の植物，No.8，p.7~8，1969(昭和44)年
- ・植物座談会のこと：吉備の植物，No.8，p.11~12，1969(昭和44)年
- ・吉備高原の植物写真図集目録：川上郡川上町立川上中学校，1969(昭和44)年
- ・セイヨウヒルガオ高梁市に帰化：吉備の植物，No.9，p.3，1970(昭和45)年
- ・吉備高原(川上台地)の稀産植物(6)：吉備の植物，No.9，p.9~10，1970(昭和45)年
- ・吉備高原(川上台地)の稀産植物(7)：吉備の植物，No.10，p.10~11，1970(昭和45)年
- ・第4回植物座談会のこと：吉備の植物，No.10，p.19~20，1970(昭和45)年
- ・吉備高原の稀産植物(8)：吉備の植物，No.11，p.17，1971(昭和46)年
- ・吉備高原の植物群の保護に関する研究(理科

教室紀要)：成羽町立吹屋中学校，1973(昭和48)年

- ・吉備高原における潜在自然植生(理科教室紀要)：成羽町立吹屋中学校，1977(昭和52年)
- ・岡山県西部地域の植物分布(岡山県川上郡備中町立平川中学校研究紀要)：平川中学校，1979(昭和54)年
- ・吉備高原の稀産植物：岡山県植物研究会誌，第1号，p.37～38，1982(昭和57)年
- ・岡山県西部地域の植物分布：岡山県植物研究会誌第3号，p.45～47，1984(昭和59)年
- ・岡山県中部地域の石灰岩地植物：岡山県植物研究会誌，第4号，p.9～11，1985(昭和60)年
- ・吉備高原植物誌：岡山県川上郡備中町立西山小学校研究紀要，Vol.5，1985(昭和60)年
- ・成羽川周辺の植物—成羽町布寄地区：岡山県植物研究会誌，第5号，p.7～10，1986(昭和61)年
- ・天神山の植生：岡山県植物研究会誌，第6号，p.39～42，1987(昭和62)年
- ・石灰岩地帯の植生：岡山県植物研究会誌，第6号，p.43～46，1987(昭和62)年
- ・吉備高原植物分布図譜：1987(昭和62)年
- ・吉備高原植物分布図譜 補遺：1989(昭和64)年
- ・Sunicula tuberculataの群落におよぼす要因の研究(理科教室紀要)：成羽町立吹屋中学校，1971(昭和46)年
- ・吉備高原の非石灰岩地帯の植生：岡山県植物研究会誌，第9号，p.5～10，1990(平成2)年
- ・三室峡の植物：神郷町，1991(平成3)年，牧邦央と植生調査
- ・三室峡植物分布図譜：1993(平成5)年
- ・阿哲地域植物の地理的考察：岡山県植物研究会誌，第11号，p.16～17，1992(平成4)年
- ・高梁川流域におけるイカリソウ属の分類：岡山県植物研究会誌，第12号，p.9～11，1993(平成5)年
- ・資源野生植物図説 成羽とその周辺地域：資源植物保存会，高田真一は編集責任者，2004(平成16)年

## (26) 花田靖之助(はなだやすのすけ)

花田靖之助は，美星町八日市の出身であるが，生年，没年，経歴は不詳である。「美星の野芳」

を謄写版印刷で1980(昭和55)年夏に著している。

## (27) 難波英生(なんばえいしょう)

難波英生は上房郡北房町五名の出身，1930(昭和5)年に出生，2017(平成29)年に没した。真庭郡を中心に小学校教諭として勤務。エビネを研究した。以下に難波英生の著作を記す。

- ・備北路の花 第一集：1981(昭和56)年
- ・備北路の花 第二集：1981(昭和56)年
- ・備北路の花 第三集：1982(昭和57)年
- ・「北房町及び隣接地に自生する山野草・花木目録」1992(平成4)年

## (28) 富山俊夫(とみやまとしお)(旧姓伊達)

富山俊夫の出身地，生年，没年，経歴は不詳である。岡山市岡町に居住。

以下に富山俊夫の論文を記す。

- ・植物採集目録(その1)：まんさく，No.1，p.9～10，1930(昭和5)年
- ・備後国比婆郡比婆山(美古登山)に登る記：まんさく，No.4，p.47～50，1932(昭和7)年
- ・川上郡植物誌：1940(昭和15)年

## (29) 赤沢郁満(あかざわいくま)(旧姓松本)

赤沢郁満は倉敷市乙島の出身，生年，没年は不詳である。1927(昭和2)年金光中学校を卒業し1951(昭和26)年から金光学園に勤務した。

以下に赤沢郁満の論文を記す。

- ・遙照山植物誌：金光学園，1955(昭和30)年
- ・遙照山のアヤマ：備中の植物，第6号，p.26，1956(昭和31)年
- ・遙照山にハナナズナあり：備中の植物，第8号，p.9～10，1956(昭和31年)
- ・遙照山植物目録：1960(昭和35)年
- ・岡山県に自生するシダ植物 第1集：1961(昭和36)年
- ・岡山県に自生するシダ植物とその分布：1962(昭和37)年
- ・遙照山の植物：金光学園，1963(昭和38)年
- ・岡山県に自生するシダ植物 第3集：1966(昭和41)年
- ・岡山県南部の植物：吉備の植物，No.2，p.16，1967(昭和42)年

- ・岡山のシダ：吉備の植物，No.3，p.6～8，1967（昭和42）年
- ・道祖溪のシダ：吉備の植物，No.4，p.7～8，1967（昭和42）年
- ・新見市河本ダム附近のシダ：吉備の植物，No.5，p.1～2，1968（昭和43）年
- ・羅生門のシダ：吉備の植物，No.6，p.8，1968（昭和43）年
- ・磐窟溪と帝釈峽のシダ：吉備の植物，No.7，p.9～11，1968（昭和43）年

### (30) 古屋野寛（こやのゆたか）

古屋野寛は倉敷市出身で1926（大正15）年生まれで現在も倉敷市で研究生活を送っている。株式会社クラレに勤務，退職後は倉敷市にある重井病院薬用植物園長に就任し，県内の稀少植物の栽培に取り組んだ。その後名誉園長となる。岡山県内をくまなく歩き調査する。「岡山の植物：西原禮之助著，日本文教出版株式会社」および「岡山の樹木：西原禮之助著，日本文教出版株式会社」の写真を担当した。

以下に古屋野寛の論文を記す。

- ・倉敷市及び其の附近の植物概観：岡山の植物，No.1，p.7～9，1947（昭和22）年
- ・岡山のフロラに加ふべき植物：岡山の植物，No.1，p.22～24，1947（昭和22）年
- ・酒津の植物：岡山の植物，No.2，p.5～6，1947（昭和22）年
- ・岡山の植物フロラに加うべき植物（2）：岡山の植物，No.2，p.14～16，1947（昭和22）年
- ・キビナハシロイチゴの葉裏：岡山の植物，No.3，p.4～5，1948（昭和23）年
- ・岡山のFLORULAに加うべき植物：岡山の植物，No.3，p.12～13，1948（昭和23）年
- ・牛が首島の植物：吉備の植物，No.1，p.8～10，1966（昭和41）年
- ・Camera旅便り：吉備の植物，No.3，p.26～27，1967（昭和42）年
- ・ザゼンソウトヒメザゼンソウの分布：吉備の植物，No.7，p.3，1968（昭和43）年

### (31) 高山敬三（たかやまけいぞう）

高山敬三は1933（昭和8）年2月18日に勝北町

中村に生まれ，現在も津山市で研究生活を送っている。1955（昭和30）年に鳥取大学農学部を卒業後，1955（昭和30）年4月から1991（平成3）年3月まで小・中学校教員を務め，高梁市立巨勢小学校長で退職した。加茂町文化財保護委員，国立公園指導員，岡山県自然保護推進員などを務め，植物研究の外，広戸風の研究を行う。

以下に高山敬三の論文を記す。

- ・教科書にある植物：美作の自然，第六号，p.30～36，1960（昭和35）年
- ・那岐山頂のクマザサ：美作の自然，第六号，p.41，1960（昭和35）年
- ・滝本のオハツキイチョウ：美作の自然，第七号，p.39，1961（昭和36）年
- ・小学校校地内植栽植物の種類とその配植について：美作の自然，第八号，p.22～26，1962（昭和37）年
- ・岡山県文化財総合調査報告書11（天然記念物編）：勝北町，1977（昭和51）年
- ・岡山県津川ダム計画に関する環境調査報告書：1977（昭和52）年，財団法人日本自然保護協会，植生を担当
- ・矢筈山郷土自然保護地域の自然：矢筈城址保存会，1983（昭和58）年
- ・津山市黒沢山の植物相について：1979（昭和54）年
- ・後山船木山地域の植生：岡山県植物研究会誌，第5号，p.14～16，1986（昭和61）年
- ・本山学術参考保護林 植物ガイド：津山営林署，1988（昭和63）年
- ・那岐山地域の植生：岡山県植物研究会誌，第8号，p.5～6，1989（平成元年）年
- ・芳井町鳴滝地域の植物：岡山県植物研究会誌第13号，p.46～49，1994（平成6）年
- ・岡山県産ヒメヘビイチゴ（バラ科）：倉敷市立自然史博物館研究報告，第18号，2003（平成15）年，池田博，狩山俊悟と共著

### (32) 渡邊義行（わたなべよしゆき）（旧姓中島）

渡邊義行は1944（昭和19）年に総社市に生まれ，岡山大学教育学部を卒業後，ノートルダム清心学園に理科教諭として勤務した。現在は岡山市において研究生活を送っている。

以下に渡辺義行の論文を記す。

- ・生徒版 野外観察の手引き 植物編：2004（平成16）年8月
- ・生徒のための自然観察資料集：No.3，発行年月日不明
- ・岡山県の天然記念物1：1993（平成5）年2月

### (33) 小畠裕子（こばたけひろこ）

小畠裕子は広島市出身で、1925（大正14）年に生まれ、現在も倉敷市で研究生活を送っている。広島女学院専門学校を卒業。シダ植物、帰化植物を専門に研究する。「帰化植物図鑑」編集委員となる。

以下に小畠裕子の論文を記す。

- ・岡山のツメレンゲ：岡山県植物研究会誌第1号，p.29～36，1982（昭和57）年
- ・岡山のツメレンゲ：（分布状況）岡山県植物研究会誌，第3号，p.34～42，1984（昭和59）年
- ・岡山港周辺に生えた一次帰化植物：岡山県植物研究会誌，第4号，p.7～8，1985（昭和60）年
- ・岡山のツメレンゲ（続）：岡山県植物研究会誌，第4号，p.31～32，1985（昭和60）年
- ・50年前の帰化植物：岡山県植物研究会誌，第5号，p.16～19，1986（昭和61）年
- ・岡山県におけるシダ植物分布1：1991（平成3）年

### (34) 光畑之彦（みつはたゆきひこ）

光畑之彦の出身地、生年等不詳である。岡山市久米居住。

以下に光畑之彦の論文を記す。

- ・金山の植物（1）：吉備の植物，No.2，p.8～10，1967（昭和42）年
- ・金山の植物（2）：吉備の植物，No.3，p.21～23，1967（昭和42）年
- ・蓮台寺の植物：吉備の植物，No.4，p.9～11，1967，（昭和42）年
- ・ツルノゲイトウを岡山市福島で採る：吉備の植物，No.11，p.14，1971（昭和46）年
- ・アサガオと光化学スモッグ：岡山県植物研究会誌，第1号，p.26～28，1982（昭和57）年

### (35) 安原清隆（やすはらきよたか）

安原清隆は里庄町出身で1945（昭和20）年4月12日に生まれ、工業高校を卒業後岡山大学工学部に勤務しながら、国家公務員初級、上級試験に合格した。現在も里庄町で研究生活を送っている。スゲ属を研究の専門分野としている。

以下に安原清隆の論文を記す。

- ・県南里庄町の湿原フロラ：岡山県植物研究会誌，第1号，p.16～21，1982（昭和57）年，佐藤清明と共著
- ・岡山県南西部ノホシクサ科植物：岡山県植物研究会誌，第5号，p.20～22，1986（昭和61）年
- ・岡山県のスゲ属植物：岡山県植物研究会誌，第6号，p.47～51，1987（昭和62）年
- ・岡山県のコウヤミズキについて：岡山県植物研究会誌，第8号，p.9～11，1989（平成元）年，花田親兵衛，西原禮之助共著
- ・ハリイ属ヒメシカクイ：岡山県植物研究会誌，第9号，p.26～28，1990（平成2）年，西原禮之助共著
- ・ヒメコウガイゼキショウ雑感：岡山県植物研究会誌，第11号，p.14～15，1992（平成4）年
- ・冬季に花序を展開する帰化イネ科植物の一種：岡山県植物研究会誌，第12号，p.6～8，1993（平成5）年
- ・寄島干拓地の稀産植物2種：岡山県植物研究会誌，第13号，p.38～41，1994（平成6）年

## まとめ

岡山県植物研究会の西原禮之助氏を始めとする方々には植物の知識だけでなく、採集会や会合を通して様々な勉強をさせて頂いた。月日が経ち、多くの方々はお亡くなりになり、その業績も不明となっている。そのようなことから、ぜひ諸先輩方の業績をまとめておきたいと、明治から現在に至る間の岡山県において植物研究に携わった35名を取り上げ調査した。論文のリストを作成するにあたり、本当に多くの方々が県内をくまなく歩き、観察、標本の作成を行ない、多数の論文を書いていることにあらためて驚かされた次第である。上記の方々以外にシラガブドウの名がついた白神寿吉や論文が1報だけの方々、名前だけで消息等つかめない方など、まだまだ多くの方々が県内を歩き植物の観察などを行なっている。発刊された

会報等の所在も不明なものも多く、不十分なまとめになったと思う。また、研究者の方々の履歴等を調査したが、個人情報への尊重や、ご遺族と連絡が取れないなどで、不詳のところが多くあった点が残念である。不十分であることは承知のうえだが、一人一人の資料につぶさにあたり調べたこの報告が、向後の岡山県の植物研究の記録の礎の一つとなれば幸いである。

## 謝 辞

この報告書を作成するにあたり、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）谷口抄子准教授のご指導を頂き、また、岡山県植物研究会員であった沖陽子先生（現岡山県立大学学長）、高山敬三先生、さらに、佐藤清明資料保存会の岡本泰典氏のご助言や資料の提供を頂いたことに深謝いたします。